

青雲館

Seiunkan
(長野県小諸市)



いよいよ 2020/2021 スキーシーズンが始まった。この時期は人工雪しかないため、利用できるゲレンデには限られる。軽井沢プリンスホテル、湯の丸、鹿沢スノーエリア、八千穂高原、アサマ 2000 パークが、人工雪があって、首都圏から近いゲレンデとなる。今回紹介するのは湯の丸の近くにある青雲館の風呂である。

青雲館のパンフレットには、「里山暮らし体験宿」「SEIUNKAN, Farmer's Guest House, Woodland Life Experience」「季節に応じた本当の田舎暮らしを体験」「糠地の農家民宿に遊びに来ませんか」「築 150 年の古民家です」の言葉が並ぶ。日本人だけでなく、外国人も相手にした商売をしているようだ。(注:「糠地(ぬかじ)」とは地名のようである。)

体験できることは何かと言うと、農作業(野菜、ぶどう)、そば打ち、餅つき、味噌作り、流しそうめん、バーベキュー、天体観測などだそう。屋外にはピザ釜があり、多目的音楽ホール、卓球台、スキーチェーンアップ台もあるという。

建物はいくつかあるが、本館と思われる建物が非常に古い。本館で忙しく働くご主人は、顔も体格も年齢も俳優の藤本隆宏にそっくりである。取材班が泊まった部屋は本館から 30m ほど離れたところにある別館である。もちろん建物の中は土足厳禁。中に入ると共用のロビーがあり、ソファセット、テレビ、給茶機、冷蔵庫などがある。客室はふすまで仕切られているだけで、鍵はかからない。トイレと洗面所は

共用。まさに伝統的な日本家屋の構造である。ホテルに慣れた外国人には、貴重な体験ができるに違いない。

さて、前置きが長くなったが、青雲館の風呂を紹介しよう。いや、実は青雲館には浴室がないのである。このため、ご主人は宿泊客に周辺の日帰り入浴施設を紹介する。では、何のための記事なのかということになってしまうが、なんと青雲館には五右衛門風呂があるのだ。五右衛門風呂とは、江戸時代に盗賊・石川五右衛門が釜茹での刑で処刑されたあの釜のことである。

五右衛門風呂は屋外に設置され、中が丸見えにならないように周囲には囲いがあるが完璧なものではない。釜は2基あり、一方のみに薪がくべられるようになっている。薪で沸かした釜の中の湯が熱くなったら、もう一方の釜に人力で湯を運び、湯温調整は水を入れて行うと言った原始的な構造である。

脱衣室は特になく、棚があって脱いだ物を入れる籠が1個あるのみだ。木製の洗面器が2個、木製の椅子が3個あるが、洗い場はなく、石鹸を使えるような環境ではない。とにかく、五右衛門風呂だけを楽しめ、ということである。

湯を沸かすのはご主人の仕事であるが、沸いた後は利用客が好きなように温度調整を行う。薪はくべ



られたままであるため、掘っておけば、どんどん温度が上がる。釜の内部には木の板があり、これを足で沈めながら中に入る。釜の底は本当に熱いので要注意だ。

便利な風呂ばかり体験してきたが、このような原始的な風呂もたまにはいい。青雲館はまさに体験の宝庫である。青雲館はスキーの宿として使うだけではもったいない。

DATA

名称	青雲館
所在地	長野県小諸市大字滋野甲 3380
電話	0267-22-0564
営業時間	特に決まっていないため、要予約
定休日	要確認
入浴料	1,100円（日帰り入浴不可）
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2020年12月5日
取材	銭湯愛好会東京支部
最寄りのスキー場	湯の丸スキー場